調査Ⅰ

若手日本語教師の学術実践：主体的な選択、行動に着目して

華中科技大学外国語学部

黄均鈞

3. 調査概要

3.1　調査者のプロフィール

協力者	職名	勤務年数	インタビュー時間	留学した時の研究領域	大学の属性
			180分		
			110分		
			120分		
			120分+80分（2回）		
			120分		

特定されるおそれがあるため、公開は控えさせていただきます。

3.2　分析手順

① インタビューを文字化し、丁寧に読みこみ、個々の協力者の学術実践の発展経路を把握。

② 語りの中の行動、感想及び評価に関する部分に留意し、コーディングする。

③ 各協力者の事例（相違点と共通点）を比較し、2回目のコーディングを行う。

④ 各見出しとその内容との整合性をチェックし、分析結果を協力者に読んでもらい、確認してもらう。

4．分析結果

4.1 日本的なアカデミック慣習との付き合い方

1）「和習」を取り除く－学術用語の混用

「从学生们的课前发表(×)中收集资料」　　汇报（hui bao）

「对日语中的子音(×)和母音(×)进行研究」　辅音（fu yin），元音（yuan yin）

論文審査のとき、日本語の癖が強いと指摘された — *樊先生*

論文の中の「和習」の部分を取り除こうと意識する — *王先生*

□ 適切な用語使用は中国語の日本語関連の**論文の「質」や「専門性」のイメージに影響**

潘钧（2021）《日语语言学术语规范问题再思考》日语学习与研究，2021

4．分析結果

4.1 日本的なアカデミック慣習との付き合い方

2） 修正と利用ー研究の視点とアプローチ

科学研究費の申請は何回も失敗した。どのように日本のことを中国に紹介するかという視点で申請書を書いていたから。同僚に「中国のことをいかに日本に伝えていくかという視点の転換が必要とのアドバイスをされて、書き直した。

郝先生

個人的な感想で、日本で研究したとき、よくこまかい問題の解明に集中し、その背後にある理論的な貢献があまり考慮されていない気がする。…わたしのこういう理論化する能力は、もっと高めていく必要があるね。

樊先生

修正

利用

私は、日本の授業実践の考え方に大きな影響を受けたので、帰国のごろ、ちょうど中国国内では授業研究を重視する風潮があって、その流れにちょうど乗っかったか、結果的には、出版に成功した。

王先生

4．分析結果

4.1 日本的なアカデミック慣習との付き合い方

3）守る－「フィールド重視」の理念

中国国内では理論に偏っているのに対し、日本の研究者はどうもフィールドワークから結論を導き出すことに重点を置いています。…住むところも少数民族地域からけっこう離れているし…フィールドに出るのが不便だけど

郝先生

指導教員からよく聞いたお話ですが、「昔の学者はフィールドワークをとても大切にしていたそうですが、今は若い学者がそうしなくなっているようですね。」
最近、研究室の先輩から、「指導教員の〇〇先生は年を取っているから、たぶんこれから、2人でフィールドワークを続けてやっていくしかないね」との連絡があって。コロナが落ち着いたら、頑張って外へいきたいね。

小まとめ

- **学術実践の様々な側面において、留学時代のアカデミック慣習が挑戦され、その挑戦への応答と交渉がつねに起こっているのではないか。**

4．分析結果

4.2 突破と困惑

1）学際的な道の開拓

学際的とは、2つ以上の学問分野が、単なるアイデアの交換から、概念、方法、用語、認識論などのレベルの統合までと考えられる。

OECD（1972：25）

学際的な発展という外国語研究の「新しい風」（胡开宝，2020）

協力者	元の専門分野	帰国後開拓した領域	変化の契機
			留学時代の研究室先輩を中心とする読書会に参加、先輩との悩み相談で決定
			偶然で、ある教育学会で知り合って、研究に情熱のある先生に助けを
			もっと能力を高めたいため、入職してからの4年目にポスドクを申し込んだ。

特定されるおそれがあるため、公開は控えさせていただきます。

4．分析結果

4.2 突破と困惑

2）専門アイデンティティの交渉

樊先生

ヒューマン・コンピュータインタラクション研究会、心理学学会などは一番役立つものだね。日本語関係の学会にほとんど出なくなり、日本語関連の雑誌への投稿も、ちょっと認められるかなあと心配した。

筆者

そうした自分の位置づけについてどう思う？

樊先生

この曖昧なポジションは仕方がないだね。でも、日本語教師だから、私のルーツはまだ日本語にあるよ…ポスドクのチームの中で、日本語の音声は私が蓄積した部分であって、これは将来どう変わっても、変わらない部分だと思う。

4．分析結果

4.2 突破と困惑

2）専門アイデンティティの交渉

日本語教育に自分の居場所があると感じるときもあれば、そうでないときもあり、もっと英語、社会学、教育学の学会に参加したいと思っています。 ---- *芳先生*

そうした自分についてどう思う？ ---- *筆者*

自分のこのような曖昧なアイデンティティが当たり前だと思うのですが、…でもときどき、分野の壁を感じて、思い直して、身を日本語教育寄りにひきましたね。 ---- *芳先生*

小まとめ

1. 元の分野が活かせるような研究テーマを探索する
2. 他分野の壁にぶつかったりするような出来事になるたび、自分の固有領域の意味や価値などが問われ、「日本」や「日本語」関連の研究経験が原点のような支えとなる

4．分析結果

4.3 多言語アイデンティティの表示

1）意識的に学術言語を選んで使う

中国語、英語、日本語の論文執筆言語について、選択していますか。どのように選択していますか？

筆者

日本の雑誌は、大学側の雑誌評価制度ではCレベルの雑誌に相当…、一生懸命書いたのに、Cレベルなんて…だから、今は友人から頼まれたときだけ書いている、でも学会誌などフォローはしているよ。… 中国語で書くのは、直接的なインパクトがあり、今時の問題点を反映できる利点もある…英語なら、世界の研究者と共通の関心が持てるから、今は英語で書くことに挑戦してる。

芳先生

論文のポイントに換算すると、英文誌が日本誌や国内誌よりも高い点数を獲得しているから、（ノルマ達成に）効率性がいいです。また、国際的な学術評価の観点から見ると、わたしは、英文誌を最優先し、そのための努力も行っている。

樊先生

いちおう、日本の大学を卒業した者として、定期的に進捗状況を報告する気持ちというか、義務感というか、また、中国の研究を紹介したりするような意図もあるね。

王先生

4．分析結果

4.3 多言語アイデンティティの表示

2）多言語を資源として生かす

欧米発生の学術概念については、その概念の理解を深めるために、時々中国語や日本語の論文を探して読みます。… 同じく、日本の固有概念についても、私は、欧米や中国の学者が言及しているかどうかも確認する。

王先生

小まとめ

1．順位づけられた多言語は様々な目的に応じて選択される。

2．多言語を資源にして異なるコミュニティ間で往復する「知識の仲介者」（Wenger,1998）

3．元の学術コミュニティへのコミットメント（Payant&Belcher,2019）としての投稿。

5．考察とまとめ

5.1　学術実践における帰国教師の主体性

「不安」とは自分と言語マーケットとの関係を意識する「自己意識の高まり」⇒ 変化の引き金

構造的な力に対抗するため、「個人がもつ複言語」をリソースとして操作する主体性の発揮

（ Zheng&Guo,2019 ）

5.2 「二重」の越境

異なる言語による学術コミュニティ（マリオット,2005）間の移動

知識の仲介者⇒新しい視点の獲得

異なる分野（学際的な開拓）での移動　⇦　やむを得なく、孤立して分野の垣根を乗り越える探索

問題志向に基づく学際的研究チームの支え（郑咏滟,2021）

参考文献

Curry,M. J., & Lillis, T. (2004). Multilingual scholars and the imperative to publish in English:Negotiating interests, demands, and rewards. TESOL Quarterly, 38(4), 663-688.

Lee, H., & Lee, K. (2013). Publish (in international indexed journals) or perish: Neoliberal ideology in a Korean university. Language Policy, 12(3), 209–213

Payant, C., & Jutras, D. 2019.Doctoral candidates' motivation for using French for research publication purposes in a multilingual environment[J]. Boğaziçi University Journal of Education, 36(1):1–14.

Wenger,E.1998,Communities of Practice:Learning,Meaning,and Identity[M]. New York:Cambridge University Press.

Zheng Y , Guo X . 2019.Publishing in and about English: challenges and opportunities of Chinese multilingual scholars' language practices in academic publishing[J]. Language Policy,18(1):107-130.

Marriott, H. /マリオット, H, 2005, 日本人留学生のアカデミック英語能力の発達（宮崎七湖訳）[J], 『日本語学』24(3),86-97

潘钧，2021，日语语言学术语规范问题再思考[J]，《日语学习与研究》3：92-101

王觅、王忻，2017，“CSSCI”体制下教师评价体系的扭曲——以日语学科教师为例[J]，《四川职业技术学院学报》（1）：117-121.

项飙，2021，为承认而挣扎：社会科学研究发表的现状和未来[J]，《澳门理工学部》4：113-119

郑咏滟，2021，新文科建设框架下的多语种教师科研发展路径[J]，《日语学习与研究》（6）：21-28.

ご清聴、どうもありがとうございました！